

て造り著るもあり。

〔近江國輿地志略九十九高島郡〕油桐あぶらご あぶらみといふ是なり、○中志賀郡松本村の山に多油桐を種て

油をとる、是を荏桐とも罌子桐とも云者なり、○中雨衣にぬりて無類なり、今桐油かつはといへば、荏の油にてつくれども、元此油にて制する者ゆへ桐油の名あり。

〔守貞漫稿十四男服〕合羽あひう ○中

襟黒らしや、らせいた、とろめん、八丈等種々、色黒ヲ專トスレドモ、紺モアリ、茶モアリ、今ハ江戸黒

八丈絹ヲ專トシ、或ハ革色木綿モ專用ス、合羽裝束ハ比日籠ナルヲ流布トスルニ似タリ、

長合羽半合羽トモニ、武家用ニハ黒或ハ萌木羅紗等アリ、市民ニモ稀ニ用之、紺モアリ、其他色ノ

羅紗製ハ稀也。

木綿ニハ黒、紺、縹、淺葱、御納戸、茶、鐵、納戸、茶、革色等ヲ專トシ、或ハ澀染ノカキツト云モアリ、常ノ木

綿ヲモ用ヒ、又眞岡木綿ヲ良トス、○中又男子ニ稀ニ女用ノ如キ無裝束下ノミ裝束紐ヲ付タル

ヲ用フモアリ、又大坂ノ兩替屋ノ手代、雨中ニハ襟衽トモニ全ク衣服ト同ク、淺木織毛木綿ニ黒

サヤ掛半エリシテ、衣服トトモニ著シテ、此上ニ帶スル也、○中

裝束ノ事 元文頃ヨリ、男女トモニ、牛角、鹿角、水牛角ノ具ヲ用フ、正徳頃ハ眞鍮或ハ黒目銅ヲ

用フ、其後ヲ詳カニセズ、今世亦水牛角製ヲ專トス、

天保以前、三都トモ、裝束糸渦ヲ專トシ、又下ノ裝束前圖ノ如ク長紐多シ、京坂今モ用之、江戸ニモ

往々無之ハ非レドモ、左圖○圖ヲ流布トス、○下

〔毛吹草三〕山城アノカッハ 雨紙羽アノカッハ

〔東海道名所記三〕宿ちかくより、雨すこしづ、ふり出ければ、男も樂阿彌も、しとゞにぬれてゆく、

略 ○中 道中には駄賃馬のりかけに、雨合羽塗笠きて打過る、

合羽種類